

- 定型BSEについては、飼料規制等のBSE対策が継続されている中では、今後日本において発生する可能性はほとんどない。
- H-BSEについては、実験動物への感染実験の結果から人への感染の可能性は確認できない。
- 脳及び脊髄(30ヶ月齢超)は引き続きSRM対象であること、また、L-BSE牛のPrP^{Sc}の体内分布に関する知見を考慮すると、今回の審議では、L-BSE由来の脊柱(背根神経節:DRG)を摂食することによる人のvCJD発症の可能性を判断する必要があると考えられる。

		定型BSE	非定型BSE	
			H-BSE	L-BSE
PrP ^{Sc} の体内分布	脳	+	+	+
	脊髄	+	+	+
	回腸遠位部	+	- ²⁾	- ²⁾
	扁桃	+	- ²⁾	- ²⁾
	脊柱(DRG含む)	+	+	+
国内牛の発生頻度		発生する可能性は ほぼない ¹⁾	発生していない ¹⁾	極めて低い ¹⁾ (0.07頭/2歳以上の牛100万頭)
ヒトへの感染		+	- ¹⁾ (ヒトモデル動物への感染例なし)	+ ¹⁾ (人獣共通感染症である可能性あり)

引き続きSRM

1) 健康と畜牛のBSE検査の廃止に係る2016年8月評価書における判断
2) 2016年8月評価書及び米国産牛肉等の月齢引き上げに係る2019年1月評価書で引用した知見
(PrP^{Sc}の体内分布に関する知見の詳細は参考資料5-3を参照。)